

幸区区民会議 第5回専門部会A「安全・安心・すこやか部会」

開催日時 平成19年1月11日(木) 午後6時00分～8時00分

会場 幸区役所プレハブ会議室

参加委員

専門部会A委員 手塚善雄部会長、末兼卓副部会長、青山一、荒井康男、大久保芳城、小林豊、
綱川幸子、萩原保夫、葉山直次、安岡信一(欠席:無し)

事務局(総務企画課) 高橋主幹、北谷主査、上松職員、吉田職員

(株)CSK 福田研究員 (以上 15名)

次第

1. 「地域防災活動の推進」・第3回区民会議への説明及び提言内容について
 - (1) 部会での検討経過及びまとめ
 - (2) 補足説明及び今後の取り組みについての提言
2. 「健康で生きがいをもてる地域づくり」・第3回区民会議への検討状況の説明について
 - (1) 検討項目について
 - (2) 今後の部会での検討の方向について
3. その他
 - (1) 第6回専門部会の日程について

司会進行: 手塚部会長

開会

本会議の情報公開に関する委員の了承。
配布資料、次第の確認。

開会あいさつ(手塚部会長)

あけましておめでとうございます。今年もよろしく申し上げます。今日は、二つ検討項目がありますので、手際よくまとめたいと思います。

議題

1. 「地域防災活動の推進」・第3回区民会議への説明及び提言内容について

- (1) 部会での検討経過及びまとめ

手塚委員長が資料1に基づき、これまでの経過を読み上げて内容を確認、了承した。

- (2) 補足説明及び今後の取り組みについての提言

手塚 一人ずつ、説明項目を確認したい。

避難所運営訓練の役割と自主防組織の取組について(青山委員)

幸区の自主防災訓練のほとんどは、これまで避難訓練であり、地震が起きたときに困った人の救済を最優先とした防災訓練をしてこなかった。南河原で実施した避難所訓練で、どこが難しく、どう対応すれば良いかが明らかになった。3月に日吉地区で避難所訓練を実施するが、南河原で明らかになったことを補うにはどんな訓練を実施すればよいかを、小倉5町会で検討している。たとえば、南河原では人員の掌握を一人でしていたが時間がかかった。避難者をすぐ把握できるようにしない

といけない。今回は、避難所運営会議ごとに統括者を選ぶ。今までは、各防災訓練に統括者が一人だったが、南河原では3人で実施した。日吉でも、その点を踏まえ実施する。現実の避難所訓練に近くなる。徹底的に問題点を究明しないと、実際避難所が立ち上がったときに運営できるか疑問だ。

事務局 資料1について補足説明します。全体会では各委員から約5分で説明をもらいたい。時間が限られるので、これまでの皆さんの発言内容を説明概要として仮置きした。また、今後どういう取り組みができるかを提言イメージとして示した。本日はこのような項目でよいか、追加項目はないかを確認し、実際の説明内容は当日までに各委員で決めてほしい。

手塚 (資料1で青山委員の説明概要を)3項目に絞っているがこれでよいか。

青山 萩原委員から民生委員が組織に入っていないので入れてほしいという提案があった。社協、PTAも同様。幸町連では常任理事会で了解を得、一緒に活動してもらおう。

葉山 ここで強調してもらいたいのは、これまで避難訓練は中学校区の4地区のみだった。今後は、小学校区単位の22箇所で避難所運営会議を立ち上げることを強調し提案してほしい。22箇所の統括者をしっかり決め、何かがあったときは統括者が取り決めることを提案する。今までは小学校の人も中学校に集まるので大雑把だ。例えば、日吉中学校の組織は決まっているが、小倉小学校の組織が決まっていないのでは混乱する。そこを強調する。

青山 南河原も最終的には小学校区の3避難所で実施する。それを参考に、小倉小学校だけで実施する。現在5町会で検討中。22避難所でできるようにする。

安岡 11月23日に実施した訓練も小学校単位で実施しようとしたが、まず一回目は避難所訓練としてどういう訓練が必要かを決めようということで、合同で開催した。その他の人は訓練内容を見学し、こういうことをやるんだとわかったので、今回小学校単位で実施できる。

避難所運営訓練及び要援護者への取組(萩原委員)

今後は身近な訓練ということで小学校区単位になっていく。それを受けて、民生委員の立場からどう関わっていけばいいかを示したい。これまで民生委員、社協は、一住民としての参加であり、組織として参加していなかった。自主防災組織にも組み込まれていないので、ぜひお願いしたい。

説明概要に「災害時に見逃さない運動」に取り組んでいるとあるが、おおむね10点に絞った。ひとつは一般的災害、防災だけでなく、減災対策を考える。それも民生委員の役割と考える。減災対策として具体的にどんなものがあるか。次に、要援護者、災害弱者の事前調査をする。また、救護のための情報開示同意を進める。大きな地震には対応しきれないが、震度5、6くらいでは家具の転倒防止も考えられる。民生委員の事前活動として、行政に働きかけながら運動を展開したい。さらに、要援護者は災害時に不安になる。この部会でも話し合ったが、民生委員でも不安をどう解消するかまとめようということになった。具体的な支援体制を整理したい。また、自主防災組織との連携を進める。災害時のボランティアは、区内をよく知っているボランティアが活動をする場合と、市・区外のボランティアの対応を線引きしないといけない。窓口が二つ必要だ。地震だけでなく、台風、豪雨、降雪などの災害も含めて考える必要がある。そのためには、自治会、町内会と連携して言及する。小さな単位の避難所として小学校体育館が考えられるが、民生委員の情報を地元の町内会・自治会長や役員と話し合いながら活用できるようにしていく。調査は現在進行中だ。寝たきり、一人暮らし、重度障害者等の把握など広げると難しい。今後は、災害弱者、要援護者の情報開示の同意は時間がかかるがやらないといけない。阪神淡路大震災のときに、食事を出せというボランティアの声が多かったと聞く。奥尻島から来たボランティアは自給自足で、現地に迷惑をかけなかったと本で読んだ。その辺も、どう対応すればよいか考えられるとよい。個人情報保護条例に

より情報の共有、開示が難しいが、取り組まないといけない。避難所については、早く自主防災隊の一員として、避難所運営会議に入れていただき活動できるとよい。

手塚 提案が多岐にわたっているが時間が限られるので、事務局と相談し絞って提案して欲しい。

避難所の課題、個々の避難所運営マニュアルなどの検討のためのモデル避難所の設置について（末兼委員）

地域防災を考えるときに、まずどんな被害が想定されるのかを、役所が把握しているので住民に理解してもらう。最悪のストーリーを知った上でマニュアル、避難所運営を考えないといけない。震度5が来たときには避難所を立ち上げる必要はない。震度6以上では、まず一人ひとりが自分を守り、72時間生活できるものを確保する。災害弱者にならないことが第一に重要。（避難所の役員も）自分の身を守ってはじめて避難所に駆けつけられる。まず自分の身を守ることを強調し、その上で、災害弱者をどう住民同士で助けあえるか。救済するためには、日ごろから発災時にどう対応するかマニュアルが必要であり、避難所が必要だということを確認したい。市の防災計画に沿った避難所運営会議を立ち上げ、おのおの避難所の実情にそった運営マニュアルを作成することを提案する。

避難所の考え方については、危機管理室の考え方とは違う。避難所の役割は、人命保護を最優先しなくてはならない。緊急医療品、救護、消火、治安、情報班を第一に立ち上げないといけない。その次に、災害時の要援護者だ。避難所となる小中学校を考慮して、避難所は一週間で終わらせることを想定したマニュアルを作成する。最初の48時間は人命救助を優先し、以後は要援護者に対応するが、1週間で閉鎖する運営マニュアルとする。

具体的に動けるのは若い人、高校生、大学生、青年だ。地区に住んでいる人が具体的に動かないといけない。この組織化は、一避難所で100～200人の高校生、大学生がいるので、1割から2割の組織化でよい。その人たちがどうすればいいか対処できる、簡単な図表をマニュアルとして作成し、役所と協力して公表する。

まず、今住んでいるところが、どういう被害を受けるかを理解してもらう。弱者にならないための、避難しない運動をまずする。行政とタイアップし、実行性のあるマニュアルを作成する。また、町内会、自治会に加入していない住民の対策、対応を検討する。災害弱者の対応と要援護者の確認、事前名簿の作成など細かくつめ、避難所ごとに対応する。行政、ライフライン等区役所を含んだネットワークを構築する。避難所内の治安対策もある。問題点は明らかだが、すぐ解決できる問題ではないので、マニュアルをつくりひとつずつ解決する。団体や企業など、運営会議に必要な人が入れる体制をとり、柔軟な対応をする。避難所を22箇所立ち上げ、個別に問題があるので、一つひとつやっつけていこうと提案する。

地域防災や避難所訓練における医師会の取組について（荒井委員）

前回以後総会、役員会が開かれていないので新しい話はない。16日に役員会、23日に総会があり、そこで会員の合意、具体的意見が出してもらい、25日の全体会で説明したい。

まず、災害の程度と強度により会員の無事を確認しあう。手段として携帯はだめなので、メールで交換しあうため、メールアドレスを集めている。まず活動できる人間はだれかを把握する。市の医師会単位で実施している。次に、避難所に行けるかを確認する。活動範囲をどの程度広げられるかを確認する。災害程度によっては動けない場合もある。

最長72時間をめどに救護所での活動をし、それ以後は自分の医療機関、診療所に戻り活動をする。糖尿病で薬を飲んでいる人などには、戻らないと供給できない。時間の経過とともに、医療活動、内容も推移する。救護所の設営は、避難所とともに経過するが1週間をめどにする。

きちんとしたマニュアルがない。会員の4分の1が区外居住者だ。活動できる人間が誰かをきちんと把握する。時間帯によって、誰が、どこに行くなどを考える。

東京から通っている人、自宅が東京、横浜にある人もいる。医師会では、居住地で医療活動してはどうかという意見も出ている。幸区には医療機関がないが、住んでいる医者はいらる。そういう人に活動に関わってもらおうという意見がある。それらの人をどう拾い出すか、よい方法がまだ見つかっていない。時間帯によっては幸区に来られない場合、居住地で活動しようという意見がある。

要望としては、避難所を設営し、そこに統率者をきちんと決めてもらう。指導者の指示に従って、我々は活動する。運営組織を立ち上げるなら、一度呼んでもらいたい。避難所の統率者と指揮体系を組み上げてもらい、指揮下に入る。どこでどうするかを言ってもらえれば、それに従って活動する。

手塚 当日は、現在取り組めるもの、こうしていききたいものに分けて報告してほしい。

末兼 避難所にかかけつけられる人がどの程度いるのか。住んでいる人、近くに診療所がある人など、小倉で訓練するときに駆けつけてもらえるか。何が必要かなど、アドバイスが欲しい。

荒井 22箇所について、会員はまったく配慮してないと思う。“どこに誰が”を今後やっていきたい。

安岡 看護師で定年退職した人がいる。そういう人をリストアップして依頼する。

荒井 医師は数が少ないので、そういう人のマンパワーは大変助けになる。

手塚 4名の話について、何か追加意見はあるか。

大久保 22箇所の避難所の耐震強度はどうなっているか。

安岡 耐震が弱いところは予算をつけ改善した。南河原小学校ではコンクリートの筋交いを入れた。

末兼 川崎市は震度6弱で倒壊しないようにしている。震度7が来たときには、倒壊しない建物はない。どこかできないといけないので、震度7では区内の3分の1以上の建物が被害を受ける。完全に安全な建物はない。災害の被害想定を役所は把握しているので、それをもらい、状況をまず知る。その上で運営マニュアルをつくらないと意味がない。

手塚 避難所の安全調査が必要ということか。

末兼 調査しても対応できない。問題はガラスだ。学校では強化ガラスが使えない。区内の学校だけでも強化ガラスになるといよいよが費用の問題などあり、今後の課題だ。

青山 どのくらいの震度の地震がくるかが大事だ。それによって避難所を運営することになる。

末兼 それはラジオで知るしかない。震度6強がきたら、強い地震としか言わない。5くらいなら情報は流れる。6強以上でライフラインがつぶれたら、何が何だかわからない。

手塚 避難所が信用できないとなると、どこに避難してよいかわからなくなる。安全だという認識を持つしかない。

大久保 5ブロックにひとつずつ医療系をはめるとか、そうした方がよい。

末兼 5ブロックに分けることも提案できると思う。

葉山 区民会議としては提案でよい。どうしろと言う権限はない。

末兼 行政は、区役所の保健センターに1箇所しか考えていないが、それを増やしてくれという提案はできる。各避難所に救急救護所をまず作ってほしい。

荒井 救護所へ医師を派遣するのは、区役所の救護所だけでいいのか。

末兼 保健福祉センター、休日急患診療所、地区防災拠点、医師会館等の適切な場所に設置するとしか書かれていない。全部に設置するというではない。危機管理室がどう考えているかはわからない。幸区では、避難所に野戦病院のような救護所ができるようにしたい。最悪の場合は中学校の5

箇所。

荒井 私もその方向で提案したい。

手塚 これまでの意見に沿って、25日に補足説明をしてもらおう。

事務局 本日、説明いただいた形で、5分の説明時間の中で、発言される項目、今後の取り組み・提言を箇条書きのメモで来週18日までに送ってほしい。区民会議当日の配布資料として整理するので。

2. 「健康で生きがいをもてる地域づくり」・第3回区民会議への検討状況の説明について

(1) 検討項目について

手塚 4委員から提言があるが、今後の検討項目として2つに絞込みたい。

まとめ案として、

日ごろから顔の見える地域でのつながりを大切にする。地域での健康づくりに取り組む団体の活動を主体に、健康の維持・増進を進める。たとえば、身近地域でのウォーキングや健康づくり体操。(手塚委員の提言・綱川委員の提言)

要介護にならないで、元気で生きがいを持って生活できるように、健康づくり、介護予防の必要性を幅広く情報発信する。たとえば医師会などによる医療・健康アドバイスの講演会など、関係機関や地域団体などによる健康づくり情報発信を広げる。(小林委員の提言・荒井委員の提言)

地域の災害活動については、避難所の運営、運営会議の開催ということで明確に絞り、意見交換した。「健康で生きがいをもてる地域づくり」も、2つくらいに絞るのがよい。まだ具体的に何をどうこうするまでは入れないが、検討していく方向性を出したい。

小林 幸区健康づくり推進会議で話し合っていることもあるが、区民に対して、その内容が通じていない。また、多様なテーマで講習会をしても、参加者がなかなか集まらないのが現状だ。市民がそれに完全に乘ってくれるやり方を考えておかないと。健康づくりにこういうことをしようというだけでは、うまくいかない。そのためには、どうしたらいいかを提案していきたい。

綱川 老人クラブでは、一いち運動として、一人が一人を募集し、会員を増やし、多様な活動をする。そうして科目を増やし、好きなことを趣味としてやってほしいという希望がある。年に2回区老連だよりをつくり、会員でない人のポストにも配布して活動を知ってもらおう。老人クラブの平均年齢が高くなっている。団塊の世代、若い人に入ってもらい、引っ張ってもらいたい。老人クラブもどんどんやっていく気持ちはあるが、若い人に入ってもらおうのは大変だ。本当は定年したら入ってもらい、ひっぱってもらいたいと思うようにいかない。

手塚 昨日、文化協会の理事の集まりがあった。あいさつの中で、文化協会の高齢化が進んでおり、若い人が文化協会の活動には関心を持たないという話をした。若い人に、どうして入ってもらおうか。文化協会の活性化を図るにはどうしたらよいかを話し合った。一人でも多く、会員を増やしていくことにより、若返りを図ろうと話した。

なるべく具体的に区民に呼びかけられるよう、健康で生きがいの持てる地域づくりが何かないかを考える。心の健康としての生涯学習、一人ひとつの趣味を持ってもらい、その中で生きがいを持ってもらおう。自分の体験としては、27年間、毎晩歩くことで、健康で元気でいられるので、身近な事例としてこういうことがあることを区民に知ってもらい、健康づくりを進めてはどうかと提案した。

地域コミュニティの活性化については、具体的にはボランティア窓口をつくる。希望するボラン

ティアを登録し、いざというときに呼びかけ、活かしていく。

また、少子高齢化の中で、子育て支援も大事だが、結婚できない若い人にチャンスをつくる。公営の結婚相談所を立ち上げてはどうか。南アルプス市など、成功している事例がある。結婚を促進して子どもが減ることを防ぐことを提言した。

綱川 とにかく楽しくやることに重点を置いている。そうしないと続かない。その上で若い人が入ってくれば活発化すると思うが、なかなか入らない。

末兼 健康づくりに、健康な人は来ない。健康な人をどう引っ張りこむか。魅力ある講演会などを開いてもらい、引き込んでいく形をとらないと、具体的にここでぼやいていてもしょうがない。アクションを起さないといけない。それには、健康な人が来るテーマを考えないといけない。

綱川 高齢者は足が痛い、腰が痛い人が多い。ですが、楽しくすることで、足腰が痛くても、参加してくれることが予防になる。

末兼 60過ぎて定年になった人が、すぐに足腰が痛いかというそうではなく、バイトなどをして生活を少しでも楽にすることをしている。悠々自適で次の生きがいを求める人は1割もない。そういう人たちを集めるテーマをこの区民会議で何回か実施し、健康づくり推進会議にもバックアップしてもらい、みんなで何かひとつのことをやりとげてみる。

手塚 健康で生きがいの持てる地域づくりと一言で言うが、具体的にどう進めるのか。言うのは易しいが、実現は難しい。

葉山 25日の全体会では、地域災害活動の問題をまとめ、健康づくりの問題については部会検討としてこの項目に取り組むという方向性を出すことになる。

小林委員が言ったように、健康づくり推進会議が区民の取組や参加に機能していないのであれば、なぜ機能していないのか、問題点を明らかにし、こうしたらよいという提案をさせてもらう。区の介護予防の支援についても、こういうところが問題で、こうしていけばいいという点を、この会合で提案できるとよい。

手塚 25日は、具体的にどうするという段階ではなく、方向性を出せばいい。今まで出た意見を、事務局でうまく整理してもらい、これからの部会での検討の方向性を出していく。

事務局 二番目の検討項目については、先ほど、健康な人はありがたさがわからないので関心をもたないという話があった。要介護にならず元気で生きがいをもって長く生活できるようにするためには、日ごろからの健康づくりや介護予防の必要性を広く知ってもらうための情報を発信することが重要だということではどうか。医師会でも、三師会（医師会、歯科医師会、薬剤師会）でより区民ニーズに合うテーマで講演会を開催することを検討しているとのことだ。関係機関や地域の団体による健康づくりの情報発信を進めることをひとつ整理できるのではないか。

一番目の項目は、手塚部会長の地域のコミュニティを活性化させることが重要という話や、綱川委員の老人クラブでの活動など、日ごろから地域で顔の見えるつながりが重要になる。健康づくり、生きがいづくりに地域で取り組んでいる団体の活動が中心になって展開されることが必要だ。健康づくり推進会議のことは小林委員から案内があった。私の聞いている範囲の理解では、団体としてきちんと活動の基盤をつくらうということで、そのためには組織の状況がどうなっているかをチェックする。スタッフが複数いるか、規模はどうかなど、判断基準は示すが、そこへの到達はおのこの努力するということでは、実際には進まない。そういう、スタッフを広げたり、おのこの活動が地域に知れ、幅を広げるにはどういう行動をすればいいのかに重点を置いてアドバイス、きっかけづくりの場を実行計画として入れないと実現できないという趣旨で、小林委員の発言を理解した。

その意味から言うと、地域での日ごろから顔の見える関係をつくる上で、健康づくりに取り組んでいる団体をどう後押しできるか、活動の広がりを周知することができるか、そういう点への具体的な実行策について提言を出していく視点かと感じている。そんな整理でよいか。

手塚 私の提言は、団体の活動ではなく、健康づくりの情報発信の中で、こういう方法があるということに入るかもしれない。今後パンフレットを作るなど、啓発活動をすることもある。健康づくりに取り組む団体がどの程度あり、どんな活動をしているかがわからない。こういう団体があるというならいいが、これから作るのは大変だ。

事務局 小林委員の健康づくり推進会議についての話は、先ほどの私の理解でよいでしょうか。

小林 よいです。

また、先生をお願いしてフォーラムを開催しても集まらない。どうやったら集められるか。ニーズとしてこういうものがあるということを取り入れることも大切だし、医師としてこういうことをした方がよいという話をしているのに、聞く人が集まらないのが問題。

荒井 同じことを感じている。65歳以上の基本診査があり、幸区ではどういった健康障害が目立つのかを知り、その中からテーマを見つければ関心を持ってもらえるかと思っただが、区だけのデータ抽出はできないということだった。もらったデータは、血圧、年齢、男女比、コレステロールくらいで、全体の状態を把握できるデータではなかった。区民がもっと関心を持ち、これは知りたいというテーマを選ぶことから始まったが、テーマだけではないのかも知れない。やり方も考えないといけない。皆が関心を持って切実なのは救急だろうということで、三師会合同でこのテーマが浮かんだ。生きがいからはテーマがはずれるが、経過としては、こういう事情がある。

区民会議は提案の場であるとすれば、どういうことを区民が望んでいるかを、聴取することもひとつだ。健康診査から情報を得ようとして失敗しているが、生の声を聞くこともひとつだ。65歳以上の健康診査もそうだが、高齢者だけに目を向けていいのかという批判も持っている。

手塚 区民会議のアンケートは集まったか。

事務局 9日で400件集まっている。

手塚 その中で、健康に関連した意見はあるか。そういったものも検討してみる必要がある。

大久保 区報などで結果を報告するのか。

事務局 25日の区民会議全体会で結果を速報し、区役所のホームページでも見られるようにする。その後分析を加え、(最終版を)区民会議で報告し、区民も見られるようにする。

手塚 方向性として、地域での健康づくりに取り組む団体の活動を主体に、健康の維持増進に取り組むことを進めていくということでどうか。もうひとつは、健康づくり、介護予防など、健康づくりの情報発信に力を入れるということで検討項目をまとめたい。

綱川 趣味などの共通する人が集まり、ひとつのグループを作ればという気持ちだ。

手塚 作るのは次の段階で検討しよう。健康の維持・増進を図っていくという方向性を出しておく。団体をつくるとか現在どんなものがあるのかは、今後掘り下げて検討する。とりあえずは、団体の活動の取り組みを支持していくという考え方。もう一つは健康についての情報発信をするというまとめ方で絞ってはどうか。

青山 老人クラブの友愛チームはすごいらしい。一人暮らしが増えており、訪問すると非常にうれしいと聞く。

綱川 一人暮らしが600~700人いる。一生懸命やっている。

葉山 検討項目の絞りこみについて、先ほどの事務局の整理でよい。

(2) 今後の部会での検討の方向について

事務局 絞り込んだ検討項目をどう検討するについてですか。この間、荒井委員から、三師会でも区民のニーズにあった講演会を開催するという話があった。どのようなニーズがあるかをきちんと捉まえていければという話がある。部会のひとつの方向として、三師会に講演会を開催してもらい、その場でアンケートやニーズを聞くこともあるでしょう。また老人クラブなどで意見を聞く方法もあるでしょう。

医師会が検討している取組みを、この部会の課題を考えるモデル的な事業として位置づけ、ニーズなどの把握してまとめる。また、地域の健康づくり団体の活動がわからない状況があるので、区内や他区の活動を視察し、どういうことが広がりをもつ活動につながるのか、広がりを持ちたくてもスタッフがなくてこれ以上できないということもあるだろうから。視察を通して、地域の活動が広がる課題出しをし、どういうことをすればいいか提言をまとめていく方法もある。

荒井委員がいるので、ご協力いただければ、医師会が検討している取組みを、モデル的に実施しながら検討する手法もあるかと思う。

手塚 25日は、方向性を言葉でまとめ、さらに、それについてこういうことをしながら検討を進めるという説明をして、次のテーマとして出していく。

説明のまとめ方については、事務局で今まで出た意見をもとに整理してまとめ、うまく出してもらおうようお願いする。

25日の全体会で、健康と生きがいのもとえる地域づくりについての提案を説明する委員が必要になる。3人の中から、どなたかにお願いしたい。説明する内容については、事務局と整理してまとめたものを発表してもらおう。

小林 荒井委員にお願いしたい。

荒井 事務局と整理して、説明する。質問があったら、他の委員もよろしくお願いしたい。

3. その他

(1) 第6回専門部会の日程について

末兼 3月までにもう一回くらいやればいいのか。

葉山 区民会議としては1年目のまとめを3月の段階で一区切りつけ、市長、区長に報告をしたい。専門部会を3月までに一回開催したい。

末兼 2月か3月に今までのまとめと、次のテーマについての方向性もきちんと出す。

第6回専門部会を次の日程で開催

開催日時 平成19年3月1日(木) 18:00スタート

会場は区役所会議室がいっぱいなので、福祉プラザ等で調整。後日、連絡する。

事務局 お手元にチラシを配布していますが、1月18日午後1時50分から幸市民館で、さいわい防災フェアを開催します。区民会議の検討結果も踏まえた取組ですし、萩原委員、葉山委員もリレートークに参加しますので、ご都合がよろしい方は、お誘いあわせのうえ、参加ください。

閉会